

5 - 6 東海地方におけるラドン観測 (VI)
Radon Observations in the Tokai District (VI)

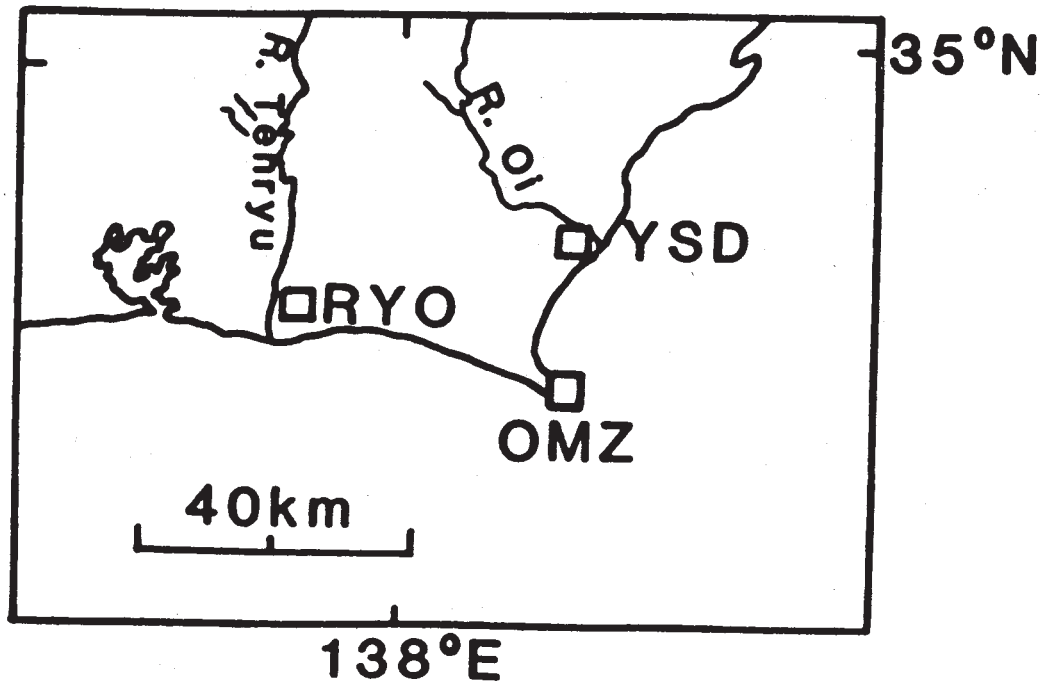
東京大学 理学部
Faculty of Science, The University of Tokyo

前報¹⁾にひきつづき東海地方における地下水中のラドン濃度の連続観測結果(1986年11月 - 1987年11月)を報告する。

観測点は第1図に示す竜洋 (RYO), 吉田 (YSD), 御前崎 (OMZ) の3点である。第2図は各地点における連続観測の記録で, 1時間毎のラドン濃度 (積算値) の24点移動平均値を, この期間内の平均値に対する相対値で示したものである。OMZでは例年夏高く冬低い特徴的な年周変動を示すが, 本年は4月, 6月中旬, 8月初旬に顕著な3つのピークが認められる。また昨年に比較して, ラドン濃度が平均値で80CPM上昇した。毎年冬期 (通常2月 - 3月) にYSDで見られる異常変動は本年は観測されなかった。RYOでは例年みられる1週間程度の短周期の変動が卓越している。これは人工揚水の影響と解釈される。

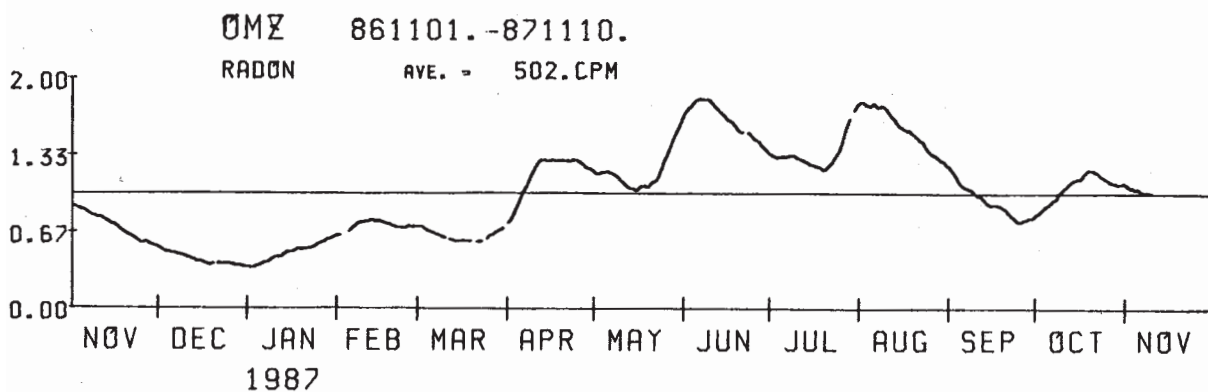
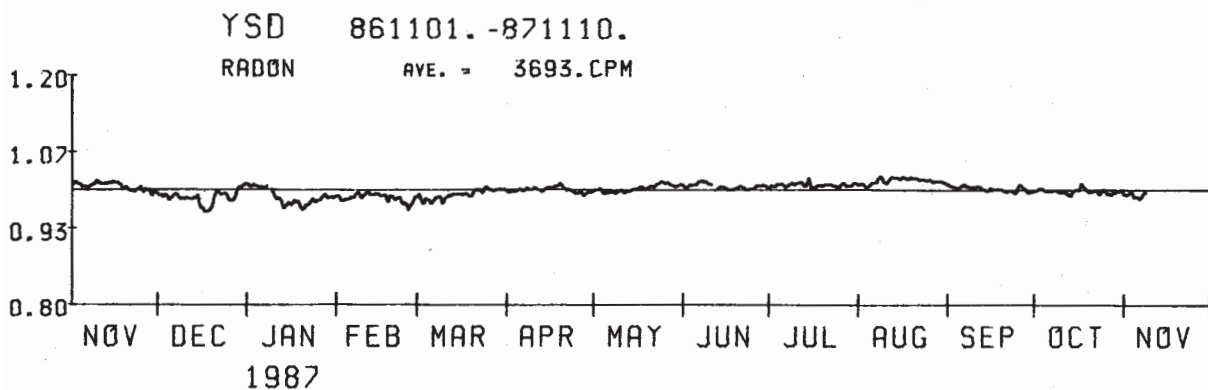
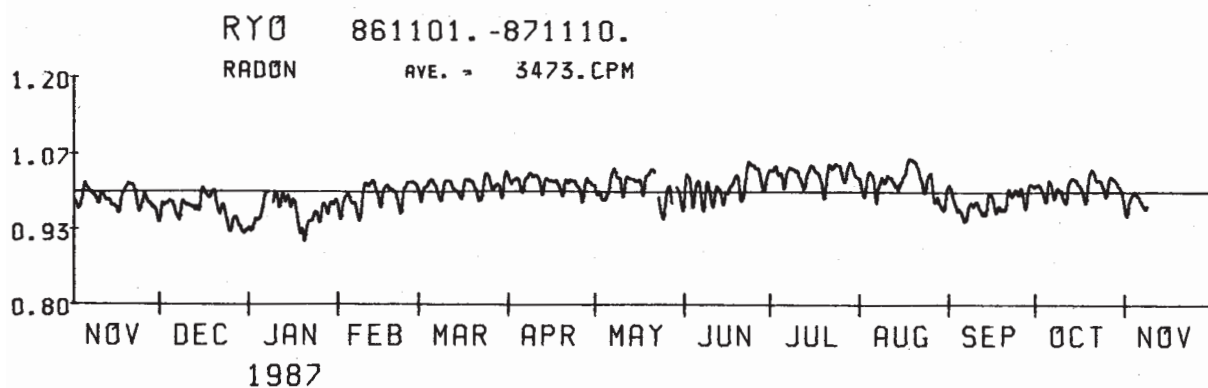
参 考 文 献

- 1) 東京大学理学部: 東海地方におけるラドン観測 (V), 連絡会報, 37 (1987), 301 - 302.



第1図 東海地方の地球化学観測点の位置

Fig. 1 Locations of geochemical observation sites in the Tokai district (RYO: Ryuyo, YSD: Yoshida and OMZ: Omaezaki).



第2図 RYO (竜洋), YSD (吉田), OMZ (御前崎) における地下水中のラ
ドン濃度の変化 (1986年11月 - 1987年11月)

Fig. 2 Temporal variations in the radon concentration of groundwater at RYO (Ryuyo), YSD (Yoshida) and OMZ (Omaezaki). (November, 1986 - November 1987).